

福島第一原子力発電所視察を実施



石崎代表、増田プレジデントへの山内委員長挨拶



原子炉1号機建屋前にて

日建連の電力対策特別委員会（山内隆司委員長・当時）は、高木陽介経済産業副大臣から「建設業界に福島第一原子力発電所の現状を知っていただく機会を設けたい」との要請を受け、本年三月十七日、委員長・委員等全二三名の参加による視察会を実施した。

現地視察に先立ち、旧福島第二原子力発電所エネルギー館において、東京電力ホールディングス(株)福島復興本社の石崎芳行代表（代表執行役員副社長）、福島第一廃炉推進カンパニーの増田尚宏プレジデント（常務執行役員）から、本格的な廃炉及び福島復興の復興推進に向けた取り組みについて説明を受けた後、尾澤卓忠内閣府官房審議官（原子力防災担当）、経済産業省資源エネルギー庁事故収束対応室の矢島宏樹係長の同行のもと、福島第一原子力発電所の構内視察を開始した。

一、四号機原子炉建屋を一望できる高台から各原子炉建屋の状況を概観した後、冷凍機で冷却した冷媒を地中に配置した凍結管内に循環させることで周辺の地盤を凍結する陸側凍土遮水壁の敷設状況、および海洋汚染の防止のために

七八〇坪にわたって造られた海側遮水壁の施工状況や構内作業員等の就労環境の改善を図るために新設された大型休憩所を視察し、最後に、現在も二四時間体制で構内監視を行う免震重要棟の稼働状況等を確認した。

締めくくりとして、山内委員長より、事故収束に向けた東京電力の不断の努力に敬意を表するとともに、自身が委員を務める原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）の廃炉等技術委員会をはじめ、建設業界内外に「国を挙げた廃炉・汚染水対策が着実に進展していることを発信したい」との言葉をもち、約六時間におよぶ視察会が終了した。

四月四日には、山内委員長が高木副大臣を訪問し、今回の視察会の実施報告を行った。高木副大臣から、事故収束ならびに福島復興に対する建設業界の貢献への謝意と引き続きの協力要請があり、山内委員長からも、廃炉・汚染水対策をはじめ除染事業に至るまで総力を挙げて被災地の復興に尽力する旨を伝え、今後関係する諸官庁と緊密に連携を取って対応していくことを確認した。